

所属・資格 生命科学科・准教授

申請者氏名 井上 みずき

研究課題		シカ過採食圧下における下層植生の回復モニタリング
報告の概要	研究目的 および 研究概要	京都府の芦生研究林は西日本では貴重な森林であり、多くの市民が四季折々散策している。しかし、1990年代に急増したニホンジカによって下層植生が衰退している。そこで、2006年、1集水域に柵(13ha)を設置しシカを排除した。芦生生物相保全プロジェクトを立ち上げ、防鹿柵集水域と隣接した対照集水域との比較を通じ、集水域スケールでの生物多様性と生態系機能の回復過程を10年に渡り調査している。ここ10年間で柵内の下層植生は回復、柵外はさらに単純化した。本年は、ひきつづきモニタリング調査を行い、シカ過採食下における森林の長期的な下層植生回復状況を把握することを目的とする。さらに、H29年度に新たに設置した防鹿柵の効果も検証していく。
	研究の結果	2006年に設置したシカ柵は冬季に柵を降ろし、春季~秋季に柵をあげた状態にする。そのため、春先に毎年、多人数で柵内のシカを追い出す必要があるが、本年は、猟犬を利用した駆逐法を初めて導入しシカを駆除した。 また、新たに設置した防鹿柵の中では、柵設置1年目の効果はほとんど出ないことが明らかになった。
	研究の考察・反省	春先に利用した駆逐法は非常に効率的であることが明らかとなった。 シカによる過採食が20年近く経過した森林生態系では埋土種子等も減少しており、柵を設置したとしても植物の多様性が劇的に増加することがないことが明確となった。丹沢でも同様の傾向が報告されており、シカ過採食が確認されたら、早期に柵を設置することの重要性が示された。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 芦生 Open Science Meeting 芦生でのシカ目撃モニタリングの結果 2018年5月23日 京都	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	芦生生物相保全プロジェクト公開成果報告会 シカ生息密度指標の経年変化 2018年8月26日 京都	